

●白州だより

2013年1月22日
二十四節気 立春
発行 白州郷牧場
山梨県北杜市白州町横手2259
TEL: 0551-35-4520
FAX: 0551-35-0132

白州郷牧場から新春のおたよりをお届けします! <http://www.hakusyu.jp/> info@hakusyu.jp

毎年好評のおみそづくりが始まりました!

2014年1月15日~4月30日

当たり前ですが、自分で手づくりするから無添加で美味しい味噌ができます。今年つくった味噌が食べごろになるのは1年ぐらい先ですが、自分のつくった味噌を料理して食べる…なんて豊かな食卓かしらとワクワクします。日本人の身体に合った食生活が見直されつつありますが、サプリメントや乳製品よりも、手づくりの味噌や漬物の方がきっと身体が喜ぶでしょう。

今年は宿泊込みのお申込みも受け付けていますので、冬の白州を体感しながらのおみそづくりができますよ! 白州の冬はとても寒いですが、雪を頂いた山々と真っ暗な夜空にきらめく星が美しく、寒さなんて吹き飛ばします。みなさまがいらっしゃるのをお待ちしております。



おいしくて、安心・安全な 自家製味噌仕込み体験

参加ご予約・詳細のお問い合わせはこちら



白州森と水の里センター 〒408-0313 山梨県北杜市白州町横手2129-1

TEL: 0551-35-4445 (営業時間/10:00~17:00水曜定休)
090-6791-4228

キララ春の学校の日程が決まりました!

2014年3月30日(日)~4月3日(木)

春の日差しの中、いのちが目覚める春の里山にくりだそう!

目を覚ましたばかりの生き物たちを見つけよう! 萌えだした野草を摘んでお料理しよう! 神代桜へおにぎり持ってお花見ピクニック!

キララの春は、冬の間、眠っていたいのちの目覚めに会い、芽吹きのパワーをもらって元気いっぱいになれる学校です。募集の開始時期やプログラム内容など、詳しくは告知パンフレットやウェブでお知らせいたしますので、今しばらくお待ちください。

「おみそづくり」と「キララ春の学校」の詳細はコチラへ!

<http://www.hakusyu.jp/>

 <http://www.facebook.com/hakusyugou.bokujo>



明けましておめでとうございます。

白州郷牧場グループ代表 椎名 盛男

新年がどんな年になるか全くわからないまま新年を迎えたのははじめてのような気がする。漠然とはがゆい思いをしながらの一年になるのかもしれない。そんな想いでいたら突然、細川・小泉連合が都知事選に出るというニュースが飛びこんで来た。日本の権力に寄生する全ての者を敵に回す決断となった。熾烈な政治となるだけでなく、この戦いには単に東京都に止まることなく、全国的なものとなるに違いない。

原発ゼロで日本をつくれるのなら日本は環境大国として世界の手本になれるだろう。安倍は日本を一変させ世界的政治家になるチャンスを見逃し、歴史のゴミ箱に捨てられる道を選んだ。日本の既得権益の悪あがきに似た抵抗は凄まじいものになる。国民にとっては誰が悪党なのかを学ぶ良い機会となるだろう。

二人とも七〇代後半であろう。年寄りには先が短い。だからこそ決断できたのかもしれないが、快拳と思いたい。原発にエネルギーを依存しない日本をつくれるか? オバマではないが We can と言いたい。

もはやグローバル化の時代ではなくポスト・グローバル化の時代と前号に書いた。もはや、商品の行き渡っていないところはロシア沿岸州の一部とアフリカ

の過疎地以外残っていない。世界は商品で埋め尽くされた。だからこそサブプライムであったのだし、リーマンショックでなかったのか。

だからこそ、私たちの思考が市場原理主義の社会の視野から消えていくことを願って何年も前にそういう話を書いた。その願いは今も変わっていない。アメリカは衰退の一途をたどっている。アメリカ一極から相対的な一極に向かっている。もはやアメリカは世界の中心ではないし、世界はアメリカ抜きで動き出している。世界の多極化とは無極化のことである。

現にアメリカはもはや侵略戦争はできない。結局オバマはシリアに進攻できなかった。シリア問題でアメリカはガクッとヒザを折った。中東の砂漠にアメリカを縛りつけ、立ち枯れさせる国際政治の罠から、シリア不介入でオバマのアメリカはとりあえず逃れた。これはオバマの英明な決断ではなく、ロシアのお膳立てにオバマが飛びついたにすぎない。言い換えればアメリカにもうその力はないということだ。細川・小泉の背後にアメリカがいるとは思えない。安倍の一派がアメリカに泣きつくことはあっても、また、アメリカに代わって中国が一極になるとも思えない。

日本が自分たちの国を自分たちで管理する決断は世界の注目を浴びるだけでなく、決断の時としてふさわしいだろう。





農事組合法人 和郷園
視察・研修報告

和郷園生産者をお伺いして
高橋 利明

二〇一三年一二月末、和郷園さんに伺い生産者さんおよび間接部門が集まる株式会社和郷さんへ視察させていただきました。

生産者さんに共通している事がいくつかありましたので紹介させていただきます。

- ・ 明るい、楽天的、前向き
- ・ 年間スケジュールが頭に入っている
(耕運・播種から収穫までのスケジュール)
- ・ 利益が出る品目かどうかを理解している

他にもあるかもしれませんが、わたしの気付いた点として三点あげました。

皆さんとても明るく、元気な方々でした。ある農家さんはサラリーマンから農業をするにあたり「苦労という言葉は見つからない。自分がやろうと思えばやる事が出来る自由さがある」と言っていました。またある農家さんはとても勉強熱心で色々試しては前向きに行動していました。また当たり前なのですが、圃場の次の定植日や夏野菜にかえるためのトラクター入れの日付がどんどんお話の中から出てきて、その詳しい内容にびっくりさせられました。

加工用の出荷を多くして袋詰め作業を省くことで作業を効率化したり、親の代から作っている作物を残すかどうか考えるときに、利益率の高い売れるものを残して、他は新たな品目を作る選択をしたりと効率化や利益率もよく考えられていました。

本来であれば、生産者として当然の資質や知識なのかもしれませんが、今回自分達に不足している部分であるところでもあります。仕事では上記の三点を意識していきたいと思いました。

それ以上に、今回の視察を快諾していただきました農事組合法人と郷園様、株式会社和郷様には深く感謝いたします。ありがとうございます。

和郷園研修・視察
阿部 孝

二〇一三年の一月二十三日から二十五日まで、和郷園に研修・視察に行ってきました。二十三日の午前九時くらいに白州を出発して、午後二時くらいに和郷園に到着しました。あまりは白州から出ないので、けっこうな長旅になりましたが、和郷園に行くのは二回目なので久しぶりでした。白州とは違いけっこう暖かくて、車から見える広い畑にはまだ、大根や白菜などの野菜があり白州との気候の違いにびっくりしました。

まず和郷園に到着して、伊藤さんにお会いしました。そのあと、伊藤さんと一緒に宿泊施設にいきました。今回泊まる場所は、(ザ・ファーム)という場所で宿泊するコテージがいくつもあり、すぐ目の前には畑がありコテージに宿泊しつつ農業を体験出来る場所でした。

翌日二十四日はまず、ザ・ファームカフェで朝食をいただきました。二十四日は丸一日長瀬さんのところで、研修をしてきました。ミニトマトのパックにシールはりや選別をしてからミニトマトのパックをやりました。午後からは小松菜を収穫しました。収穫のやり方やコンテナの入れ方など白州とは違う部分もあり勉強になりました。

二十五日はまず齊藤さんの農場に行きました。齊藤さんのところでは、年間一〇品目以上の野菜を作っていて、一年中忙しそうでした。齊藤さんはすごく前向きな人で、農業をやっているあまりつらいと思っただけでいいと言っていました。自分もいつかはそんな事がいえたら良いなと思いました。その次に神崎さんの農場に行きました。神崎さんの所では、今ユリの出荷で忙しそうでした。ハウスの中ではまだ栽培中な所と耕運がして次の準備に入っている所があり常に空気がないようにしてありました。無駄が無いように畑を最大限に生かして、白州でも出来るように頑張りたいです。

今回、和郷園に研修・視察が出来て嬉しかったです。和郷の人たちからも白州ならもっと良い物が出来るよと激励をもらいました。ありがとうございました。



1

春からの畑に想いを馳せて (和合園視察報告)
小齊 太郎

千葉にある和郷園という農業者グループの生産者さん三人にお会いした。共通点は、皆さん「明るく」「元気」ということ。自信をもって農業に取り組んでいること、お会いした瞬間からひしひしと伝わってきた。「農業で身を立てる」「農業でしっかり稼ぐ」目的が明確だから、体全体から滲み出てくるのだろう。また、彼らの作物を販売する株式会社和郷の販売責任者の方からは、「買って頂く」ための仕組みについてお話を伺った。生産者が誇りをもって作物を作り、しっかり稼げるよう、不断の努力を続けている。

一方、私たちは、次世代を担う子どもたちに安心して食べられる作物を届けて元気に育ててもらうことを最も重要な理念として生産活動を営んでいる。その具体的な形が有畜複合・農業を使わない農業の実践である。つまり、稼ぐこと、儲けることが最上位の理念に位置することはないのだが、明るく元気に、笑顔で働き、生産活動を継続するためには、稼がないという訳にもいかない。それが現実である。そのために、和郷園の皆さんのマインドを肌で感じ、大切に育てた作物を必要とする人たちにしっかりと届けるための仕組みを学ぶ必要あり。椎名代表の思いはここにあったものと確信した今回の視察。牧場に戻り、視察成果を活かすべく、春からの畑に想いを馳せながら作付け準備に取りかかっている。

初めての経験、厳しさを知らないから故とはわかってはいても、ワクワクする新年を迎えている。

- 1: 『貸し農園 the Farm』内にある the Farm Cafe
- 2: 長瀬さん宅のミニトマト
- 3: 小松菜の収穫
- 4: お弁当やお惣菜を販売する「まんぶくさん」
- 5: 神崎さん宅のユリの出荷場
- 6: 都祭さん宅の長ネギ



3



4



5



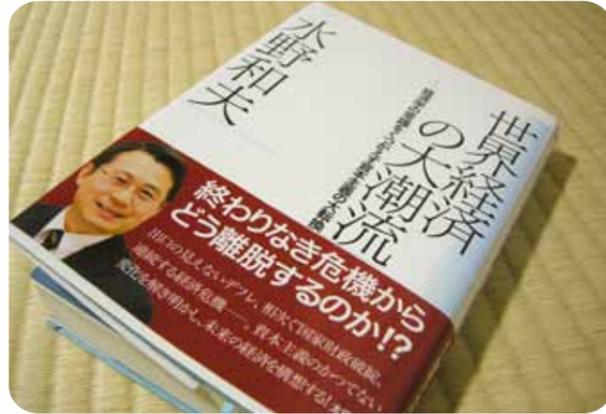
2



6

「世界経済の大潮流

—経済学の常識をくつがえす資本主義の大転換—
水野和夫 著 (太田出版 at 選書)



「尻尾となる金融経済が頭であるはずの実体経済をふりまわした」。リーマンショックに端を発した世界金融危機を水野氏はこう見立てる。この金融危機によって世界の金融資産は二〇兆ドルあまりを損失したが、当時まだ一四〇兆ドルの金融資産があったという。これに対して実体経済が六〇兆ドルだったというから、いかに金融経済が実体経済を圧倒して肥大化していたかがわかる。「政府の介入を最小限にして市場にすべて任せておけばいい」、という新自由主義はこうした状況を作り出すのに一役買ったわけだが、結局のところは金融機関救済のために公的資金が注入され、景気対策のためには財政支出を増やさなければいけなくなっていた。貫徹しなければいけない思想信条なんて端から無かったのだ。しかも厄介なことに、ひどい目に会ったのは投機的な資産運用をしてぼろ儲けをした連中ではなく、そうしたことは無縁な低所得者層や中産階級だった。

水野氏によると、こうした先進諸国における金融経済の膨張は一九七〇年代からはじまっているという(注)。このころに近代資本主義は二つの限界に直面していた。一つは米国のベトナム戦争敗戦によって、市場を地理的・物理的に拡大することに歯止めがかかったこと。もう一つは、二回にわたるオイルショックによって、中東から安く買いたたいていた原油の価格が高騰したことだ。

近代資本主義は成長を前提とする。そのためには新たな市場を常に開拓して売上高を増やすこと、そして生産に関わるコスト(中間投入額)を最小限に抑えることが必須となる。一九七〇年代に入ってから、それまで前提

として考えられてきた「無限の空間」「無限のエネルギー」は限界に達しつつあった。

ここから水野氏の分析の面白いところなのだが、人類史における社会的な転換点には、その予兆として利率の低下が見られるという。例えば一六世紀のイタリア・ジェノバでは、「利率革命」の後に中世荘園制・封建制社会の時代が終わりを迎え、近代資本主義・主権国家の時代へと移り変わっていった。「利率革命」とは二%以下の超低金利が一〇年以上にわたって続き、経済・社会システムが維持できない状況になることを指す。一九七四年を境に先進国の長期金利はピークを迎えている。そして日本では、一九九七年から現在までの一七年以上にわたって「利率革命」の状態に入っているという。

金利が低いというのは投資をしてもリターンが見込めないということであり、投資が社会の隅々にまで行きわたったということでもある。これを成長戦略の限界として認識するべきだったのだ。ケインズはこうした状況を予見し、「利子生活者の安楽死」が起こると見た。

しかし「安楽死」は起こらなかった。それどころか、米国はこの限界を「電子・金融空間」という新たな無限空間を創出することによって乗り越えようとした。資本の流動性を高めることによって、土地、株式、債券の価格変動から利益(キャピタルゲイン)をあげることが可能になった。投資ではなく、投機が幅をきかせるようになったのだ。

特に決定的だったのは、一九九五年に米国のルービン財務長官によって打ち出された「強いドルは国益」政策だという。これをきっかけにして、米国は世界の余剰貯蓄を自由に運用することができるようになった。それにレバレッジをかけて運用することによって、わずか数十年の間に欧米の投資家たちは百兆ドルもの金融資産を増やすことができた。日本は戦後六〇年間で一五〇兆円の金融資産を築いたのだが、実にその三〇倍のスピードで儲けたことになる。バブルが起きて当たり前なのだ。

水野氏は、福島原発事故もリーマンショックも同じ原因から発生したことだと説く。どちらも限界に来ていた近代資本主義を無理やり引き延ばそうとして、未来の価値を先取りしてしまった結果なのだ。原子力発電は、そのリスクやコストを未来に先送りすることによって安価なエネルギーの供給源となる。同様に、金融経済も未来において得られるはずの富を現在の時点で先取りしてしまった。リーマンショックの引き金となったサブプラ

イムローンにしても、信用力の低い低所得者層の未来における購買力を先取りして、無理な貸し付けを行ったことにある。すぐにでもマイホームが手に入るとけしかけたのだ。

私たちが時代の転換点に立っていることは間違いないと思っている。そこで何をすべきか、という問いに答えを持っているわけではない。とりあえずはもうしばらくの間、暴走するマッドマネーの歴史を遡ってみたいと思う。

(注)：1971年に米国はドルと金との兌換を一時停止させ、世界経済は変動相場制へと移行した(ニクソン・ショック)。

さよなら白州 白崎森夫

店舗部門担当の白崎です。このたびは白州森と水の里センターを退職し、新しい土地での生活を始めることになりました。

白州に来て四年弱、おっぱに亭ここの業務をはじめ、野菜の収穫、パック、初生のひよこ大きくなるまで育て、キララの学校の班長を務めるなど幅広い分野の仕事をしていただきました。未熟な点多々あり、お客様やスタッフの方にご迷惑をおかけすることがたびたびありました。白州で学んだことをしっかりと次につなげ、将来大きく成長できた姿を皆様にお見せできるよう励んでまいります。

また、新しい土地は白州の環境とだいぶ異なります。いろんなことにチャレンジしようと思っています。海がすぐそばにあるので海釣りやサーフィンでもはじめるかと浮かれています。まずは地域にしっかりと根を張り、白州郷牧場のようにその土地に貢献できる活動をしていきたいです。

四年近くの間、本当にお世話になりました。ありがとうございます。



パルシステム公開確認会が
開催されました

二〇一三年十一月二十二日、北杜市武川町の甲斐駒センターせせらぎにおいて、白州森と水の里センターを対象にしたパルシステム公開確認会が開催されました。

公開確認会とは、食の安全性の確認を国やその外郭団体にまかせるのではなく、実際に消費する生協組合員自身で行おうというパルシステム独自の企画です。

この日は五十八名の参加者があつまり、「有畜複合型の循環農業」や「キララの学校」の取り組みについて見聞きしてもらいました。実際に足を運んだ白菜の畑では、その場で白菜を食してもらったところ「甘くて美味しい」というお声をいただきました。こうした声を励みにして、今年も頑張ります!(報告：内藤)



白州郷牧場 忘年会!

二〇一三年末、牧場では忘年会が開催されました。今回は協力関係にあります(株) hototo と合同開催。さらに初めて一泊での忘年会開催となりました。

夕方までに業務を終わらせ、いざ宿泊先の石和温泉へ。年末ということもありいつもより車が多く渋滞気味です。はやる気持ちを抑え安全運転で会場ホテルへ。日帰りのメンバーも含め総勢四十二名が集まり宴会が始まりました。バイキング方式の夕食に食欲も最高潮に。その場で揚げてくれる天ぷらやお刺身の盛り合わせに一年間頑張ってきた労も癒えた気がしました(笑)。

一番はしゃいでいたのが子どもたち! 大人で食べる夕食はいつもの食事より格段に楽しかったようで、笑顔が絶えなかったようです。

従業員・パートさんとそのご家族が集まるのも初めてのイベントとなり、牧場が一つの家族になったような嬉しい夜でもありました。

来年もまた宿泊付きの忘年会が出来るよう一年頑張りたいと思いました。(報告：高橋)



キララ冬の学校 2014



新春の一月四日から七日までキララ冬の学校が開催されました。小学生の参加者が全員女の子ということで、とてもにぎやかな学校となりました。

初詣

キララ冬の学校はまず山の神様に新年のご挨拶をすることからはじまります。甲斐駒ヶ岳の麓にある甲斐駒神社にいて、初詣と新年のお祈りをしてもらいました。

牛の世話・たまごとり

今回は常連の子たちが多く来ていたので、たまごとりも牛のお世話もなんだかスムーズにやれました。初参加の子たちも、つられてなの抵抗なく鶏舎の中へは行っていきました。みんなこの後の朝食で食べるたまごを持って帰りました。また、現在飼育中のヒヨコたちも見学していきました。

キララ冬の学校日程

1月4日(土)

13:00 白州郷牧場到着
14:00 初詣
16:00 薪わり
おふろ・夕食
自己紹介
就寝

1月5日(日)

6:30 起床
朝の散策
朝食～朝の散策で集めた卵で卵かけごはん
レタス種まき
おもちつき
昼食～つきたてのお餅
はがきをつくろう
おかきづくり
おふろ・夕食
就寝

1月6日(月)

6:30 起床
朝の散策
朝食～朝の散策で集めた卵で卵かけごはん
名札づくり
味噌作り
昼食～つきたてのお餅
割り干し大根づくり
おふろ・夕食
就寝

1月7日(火)

6:30 起床
朝の散策
朝食～朝の散策で集めた卵で卵かけごはん
片付け・荷造り・作文
昼食～七草粥
閉校式



味噌作り

冬といえば味噌仕込み。ゆでた大豆を挽いて麴と混ぜあわせるところからやりました。大きな団子をつくってタルにたたきつけるのにはみんな大はしゃぎでした。



おもちつき・おかきづくり

毎年恒例のおもちつき。今年はずいたおもちでおかきづくりに挑戦しました。家庭でもつくれる簡単お菓子里に子供たちも大喜びでした。



割り干し大根づくり

秋から冬にかけて収穫される大根を干して保存食にします。煮物にすると大根の濃縮された甘みと旨味が絶品です。



ハガキづくり

紙も自分で作ってみよう、ということで、牛乳パックをリサイクルしてみました。残念ながら乾燥が間に合わずでしたが、ちゃんとしたハガキになりました。

レタスの種まき

一年のはじまりはレタスの種まきから、です。順調に芽が出はじめており、ゴールデンウィークのキララで収穫できる予定です。



(報告：内藤)